
兄と妹

七色

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

兄と妹

【ZPDF】

Z2057D

【作者名】

七色

【あらすじ】

とある兄と妹の怠惰な会話。深くも浅くもない。もつれつまつた
り怠惰感30%増量中の眠気を誘う月曜の午後のお話。

(前書き)

兄 - 16歳高校一年
妹 - 14歳中学一年(自宅警備員)

「時に兄よ」

「何だ妹よ。自室から半口ぶりに這いだしてきていきなり」

「生命保険に入つて死んではくれまいか」

「流石だな愚妹。実兄に向かつてそこまで明確かつ現実的死を望むとは」

「褒めるな照れる」

「照れるなら頬を朱に染めるとか少しは可愛らしい事はできないのか？」

「無表情で生命保険の種類を突き出されながら言つても説得力はないぞ」

「冗談なのだから当たり前ではないか」

「何だ。先刻の言葉が罵詈雑言だと分かつたのか」

「それは私に対する挑戦状か？」

「いや、素直に驚きを表現しただけだが」

「死んでしまえ」

「待て刃物は待て。本当に死ぬぞ。というかその日本刀どこで買つ

た？

何故我が家にそんな銃刀法違反な代物がおいてある

「作った」

「さり気にしていいな妹。そして我が家に鍛冶が可能なスペースがつたのだな」

「ちなみに銘は『兄殺し』だ」

「察するに大分前から俺を殺すことを考えていたか。妹の機微に気づかなんだとは兄として不覚をとつたな」

「安心しろ兄よ。物心つくころからずっと思っていた。最近の話でもあるまいて、機微など分かるはずもない」

「異国の父と母はお前に一体どういった教育を施したのだ？」

「天上天下唯我独尊」

「引きこもりの分際で随分だな」

「引きこもりではない。自宅警備員と書いて」

「自宅警備員」

「ルビを振るな」

「何故分かつた」

「勘」

「愚妹よ。お前は本当に俺の妹か？いや、そもそも人間か？」

「お前の妹というのは信じがたい事実だが人間だ」

「わざやつて兄の心を踏みにじるのは楽しいか？」

「ファミコンよつは」

「それはどの辺だ？ 楽しいのか？ つまらんのか？
いや、確かにファミコンには隠れた名作や、古きよき名作があるが、
次々と目新しいゲームが新出する今のご時勢的にどうなんだ？」

「ファミコンを馬鹿にするな」

「刀を振り下ろすな」

「かわすな」

「無理を言つな」

「無理などという諦めの言葉なんて聞きたくない。
そもそも無理などという言葉自体存在が疑わしい。
過去を見るがいい。不可能といわれた飛行ですら今では当然の」と
く可能なのだ。

人は諦めないと少し進化してきた生き物だぞ

「ならば諦めずに学校へ通え」

「無理を盡つかな」

「おこ」

「正義はわれにあり」

「妹よ。お前は一体どこの独裁者だ」

「兄よ。この世界は私を中心回っているのだ。覚えておけ」

「ああ、次のテストに出でたら覚えておけ」

「時に兄よ。本題なのだが」

「今までのは余興だつたのか」

「保険に入つて死んでく」 「結局それに帰るのか」

「仕方ないではないか。新しいパソコンが欲しいのだ」

「働け」

「私はまだ中学生なのだが」

「そばは読みすぎだ」

「・・・・・・本当なのだが」

「……………え？」

「死んでしまえ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2057d/>

兄と妹

2010年10月10日03時51分発行